

事業所も研修生を育てるパートナー！

カレッジ通信

発行
東京建築
カレッジ

授業見学
大歓迎！

Tel
03-
5950-1771



1月23日（土）「実習棟実習」
2日目。上棟式でクラスメイトと
祝詞を読み上げる高橋和真君
（写真左）

東京建築カレッジの入学資格の一つに、「カレッジへの通学を保障する建築関係の事業所に入職していること」（募集要項）があります。また、2年間の訓練時間2929時間のうち360時間を必修科目「OJT（現場教育）」としています。研修生を派遣する事業所はカレッジ教育のパートナーと言えるでしょう。第20期生（1年生）高橋和真さんの事業主、株式会社 長坂工芸の取締役 長坂道子さんに派遣事業主としての思いを聞きました。

派遣事業主 長坂工芸さんに聞きました！

（カレッジに入学させようと思った動機は）
高校卒業前の面接で、本人が「大工になりたい」と意思表示したことを尊重し、若い人材をゼロから育てる好機であり、当社社長の意向で、まず建築カレッジに入学させ、基本を学んでもらうという条件で採用しました。

（和真君の成長にカレッジは役立っていますか）
社会経験不足ゆえに、共に学ぶ同期の仲間と

の関係において自分本位になりがちな言動を反省するようになってきました。人間関係づくりでも貴重な学習の場になっているようです。先生方や諸先輩からもあたたかい指導・助言の効果も大きいですね。

（職場ではカレッジのことをどのように話していますか）
平日は親方と現場に出ているため、月末の給料日に必ず会社に顔を出してもらいますが、特にカレッジの話題には触れず、

カレッジは理想の新人教育システム

（もうすぐ2年生に進級します。学校生活で期待することは）
初心を忘れずプロになるために幅広く貪欲に学ぶ姿勢を持ち続けてほしい

（事業所にとってカレッジの魅力とは）
月曜から木曜までは現場で働き、金、土にカレッジで集中的に勉強するというOJTのメソッドは理想的な教育システムです。旧来の考え方や手法が通用しない状況の中で、建設業の従事者が激減する10年先、20年先を視野に入れた人材育成が大きな課題となっています。

建築カレッジは、これから建設業の仕事をめざす若い人たちにとって、本人・学校・職場が「三位一体」の恵まれた環境だと思えます。カレッジで学び培ったものは、大きな誇りと自信になり、プロとしての素晴らしい仕事につながっていくでしょう。



上棟反省会で発言する、高橋和真君

いものです。先生方や先輩、仲間たちから、謙虚に素直にたくさんのことを学んで、仕事に直結した資格や免許などの取得をめざして努力してください。

今年もやるよ！第18回 東京建築カレッジ祭 技能文化祭 2016 in 江東実習場

- ・3月6日（日）午前10時～午後3時終了
- ・東京建築カレッジ 江東実習場&隣の児童遊園 江東区北砂1-15-12
- こども工作教室、上棟式、作品展示、各種模擬店。

（メモ）株式会社 長坂工芸
 代表者 長坂 博明
 埼玉県入間郡三芳町竹間沢東1-16
 TEL 049 (274) 3071
 資本金 2,000万円
 従業員数 10名 造作大工 60名
 業種 大工工事業、建築工事業、内装仕上工事業
 事業内容 内装造作工事、家具製作取付

第19期生 卒業制作発表会リポート

迫力あった大型作品

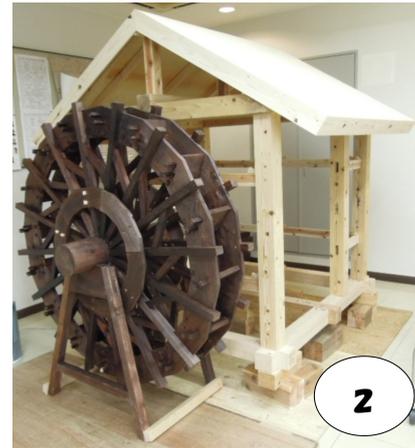
2月21日、19期生「卒業制作発表会」が行われました。今年の特徴は、大きな作品が多く、迫力のある発表になったこと、そして、ここ数年で最高の約80人が参加したことでした。大勢に注目されながらの発表はどれも感動的でした。



1

写真1は、「入母屋屋根班」の作品です。完成度はともかく、反り隅木のかっこよさが伝わるものになりました。突費工事で当日の朝、この状態に

写真2は、「水車小屋班」の作品です。初夏には基本構想ができあがっていましたが、最終盤で施工の難しさに直面し、発表会の開会の直前まで作業が慌しく続きました。



2

写真3は、「床の間・付け書院」の作品です。全員が大工です。現場力で一気に仕上げました。途中色々ありましたが、メンバーが一致団結して納期に間に合わせたのはさすがです。



3

「原寸図の重要性を体感するなど、学習効果は十分にあったのではないかと講評されていました。

「行灯班」の作品。小ぢんまりとしていますが、完成度の高さが注目されました。このほか、「母屋貸し別荘の設計班」の発表もありました。これら作品の一部は、3月6日のカレッジ祭会場でも披露されます。



松田ワールド

土木建築系フリーマガジン

(無料配布誌)

「ブルーズマガジン」の最新号に、建築カレッジの紹介記事が載りました。ぜひ、ご注目ください。

ブルーズマガジンは、水道工事会社の社長と若手出版業界人が昨年立ち上げた土木建築の仕事の魅力発信メディアです。



最大限生かそう」というメッセージが贈られました。

カレッジ生インタビュー！20期生 高村一帆さん（19歳）カレッジは楽しい！

親に勧められて入学しました。建築系専門学校の間コースも検討したけれど、仕事との両立と学費の安さからカレッジを選びました。仲間と一緒に学べるカレッジは楽しい！実習が一番好きだけれど、橋本英夫先生の座学も面白い。サンガネの使い方の基本とか。現場で学べないことを教えてもらえます。

将来は、木造工事なら何でもできる大工になりたいです。そのためには資格も若いうちに取りたい。せっかくカレッジに入ったのだから卒業後は2級建築士の受験も頑張りたい。

